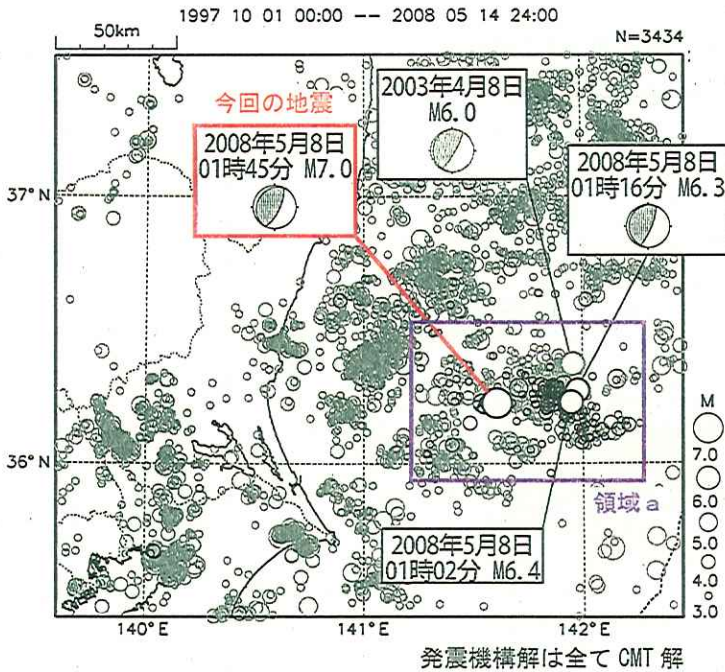


5月8日 茨城県沖の地震

プレート境界、M7.0、前震活動あり、M5クラス減少していた

震央分布図 (1997年10月以降、深さ0~90km、M \geq 3.0)
(2008年5月以降の地震を濃く表示)



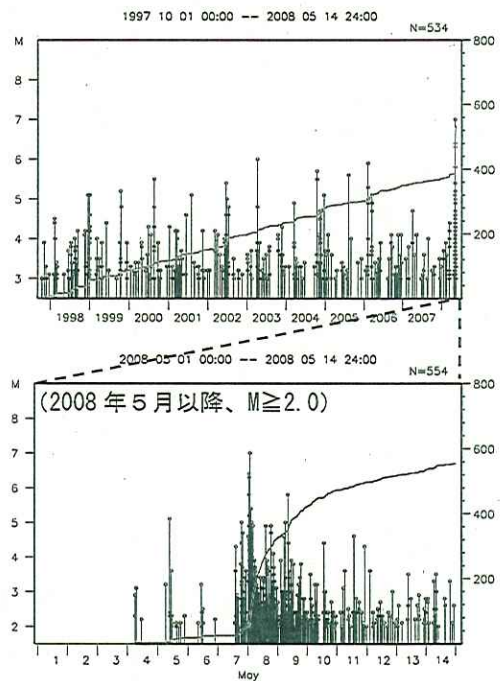
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域a)では、M5.0以上の地震が1年に1回程度の割合で発生していたが、最近では2006年3月13日のM5.1(最大震度2)の地震以降、今回の地震までM5.0以上の地震は発生していなかった。

2008年5月8日01時45分に茨城県沖でM7.0(最大震度5弱)の地震が発生した。この地震の発震機構(CMT)は西北西-東南東方向に圧力軸を逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

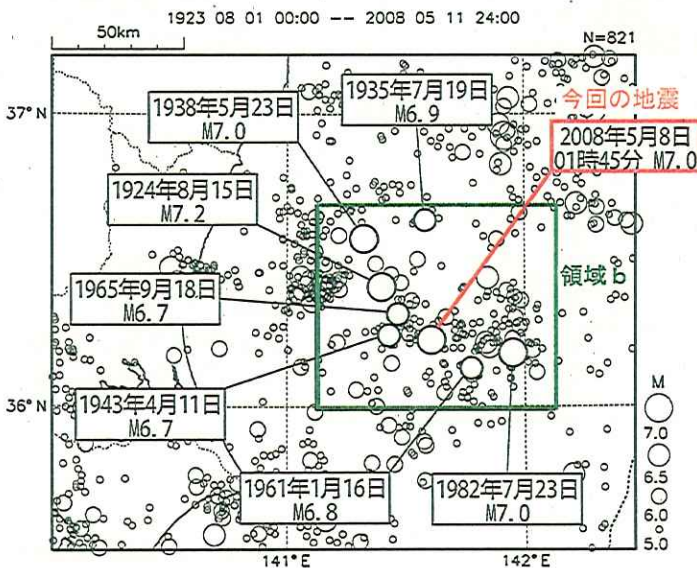
今回の地震の震央付近(領域a)では5月4日頃からまとまった地震活動が発生し、7日14時過ぎから活動が活発となっている。

14日現在、地震活動は徐々に減衰してきてはいるが継続している。

領域a内の地震活動経過図、回数積算図



震央分布図 (1923年8月以降、深さ0~90km、M \geq 5.0)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域b)では、平均して約15~20年に1回程度の割合で、M7程度の地震が発生している。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図

